

SIP第2期の研究成果①

レタスのトレーサビリティ実証

エナジー

- 株式会社栄農人（長野県）と阪急オアシスのグループが、消費者へ品質をわかりやすく伝えるため、収穫後、真空予冷をかけたレタスのコンテナに識別コードとセンサーを取り付け、出荷時刻や輸送中の経路・温度記録を小売店に伝達。
- 小売店では、当該レタスを「朝採れレタス」として、輸送中の経路と温度を店頭のPOPとアプリで見える化して販売。
- 結果、即日完売となったほか、店頭で実施したアンケートでは、鮮度が良く価値ある青果物に対しては多少高価でも購入したいという声などが得られた。



SIP第2期の研究成果②

イチゴの輸出実証

- SBIトレーサビリティ株式会社と藤田農園（栃木県）などのグループが、国産青果の輸出拡大を目指し、産地や生産物の情報と輸送環境情報（温度・衝撃・経路等）をシンガポールの現地販売店（高島屋シンガポール）まで伝達。
- 消費者の反応は好評でイチゴは完売となった。

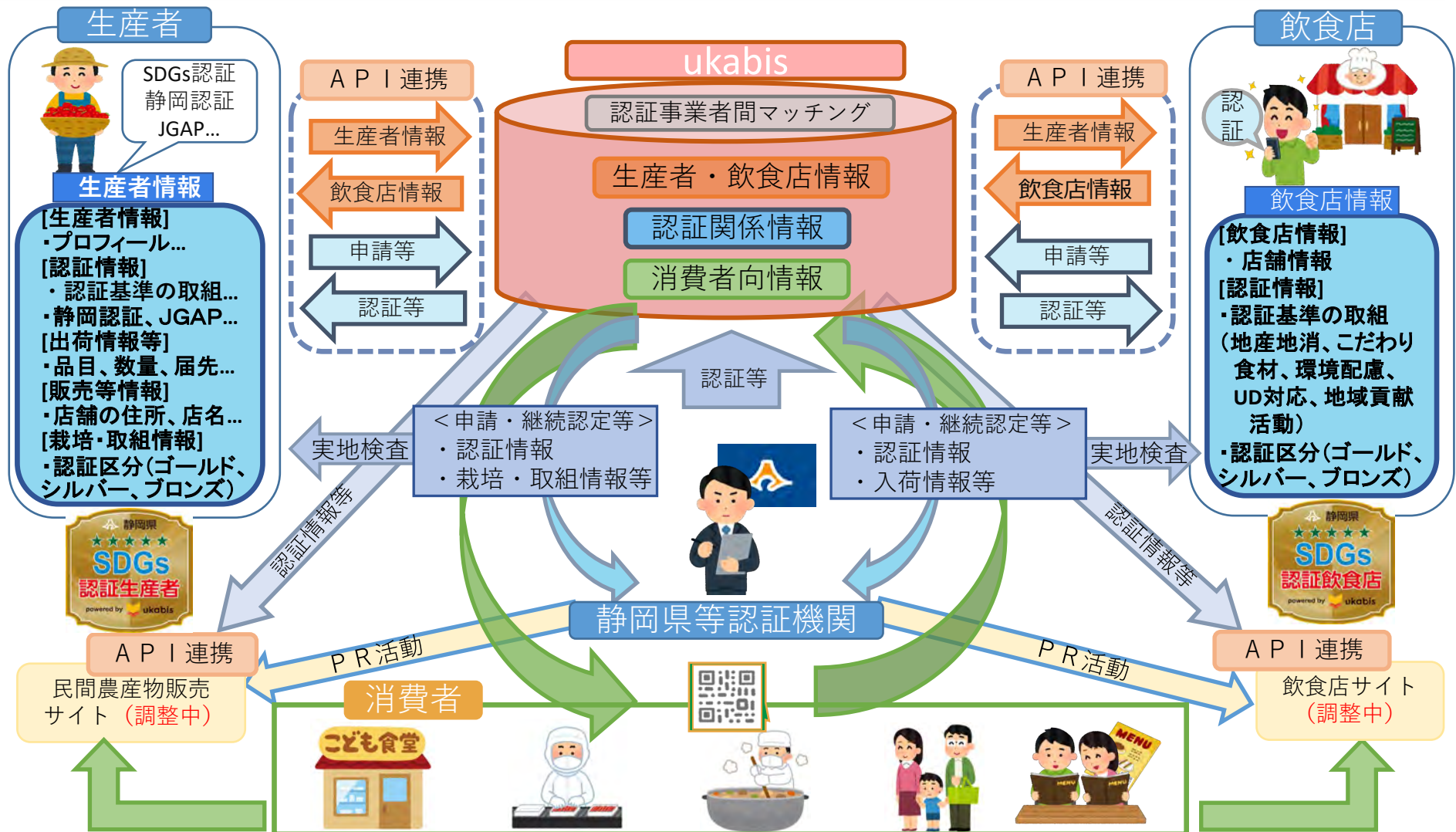


「Check out the strawberry info!」と書かれた二次元コードと共に販売

SIP第2期の研究成果③

静岡県のSDGs認証制度との連携

静岡県は、スマートフードチェーンプラットフォーム「ukabis」を活用し、①新たに創設する生産者や飲食店のSDGs認証制度の申請や認証、②認証事業者間のマッチング、③消費者への情報発信を行うことで、持続可能な農と食の地域社会を実現する仕組みを構築。



SIP第2期の研究成果④

一般社団法人の設立及び活動予定

- 公益財団法人流通経済研究所、一般財団法人アグリオープンイノベーション機構が設立時社員となり、2022年8月に「一般社団法人スマートフードチェーン推進機構」を設立。
- 同法人では、スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）の運営、各種セミナー等を通じた普及啓発活動を実施予定。

一般社団法人スマートフードチェーン推進機構

SFCプラットフォーム 運営団体としての活動

- スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）の運営
- ukabisにデータをアップロードするコンサルティング支援やビッグデータ分析などの機能の追加、データ販売などのサービス提供

SFCを推進する 業界団体としての活動

- SFC関連の最新情報提供や勉強会などを提供することでSFCを推進
- 一般社団法人SFC推進機構の会員に対するサービス提供

産地と卸売市場における伝票電子化の取組

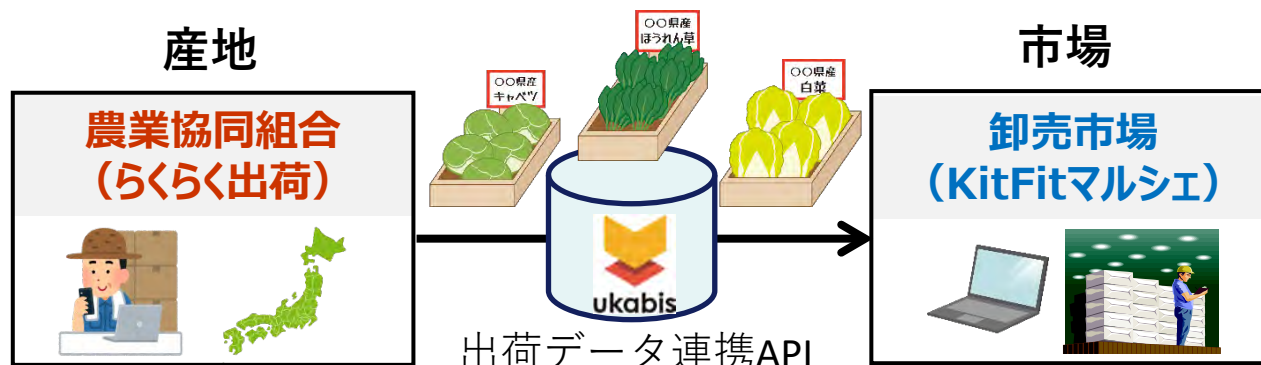
(BRIDGE※での実証事例) ※内閣府「研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム」

- JAの集出荷業務をデジタル化する「みどりクラウドらくらく出荷」(株式会社セラク)と全国の中央・地方卸売市場で利用されている基幹システム「KitFitマルシェ」(都築電気)がukabisを活用したシステム連携を実施。
- 市場では、FAXで受信した紙伝票の内容を手入力していた作業が不要となり、データを取り込むだけで入荷処理が完了でき、従来の入荷作業時間が82%削減され、作業効率が大幅に向上した。

これまでのJA・市場間の情報伝達



- ❑ FAXや電話での出荷情報のやり取り
- ❑ 受け取った伝票を市場のシステムへ手打ち入力することによる作業負担や入力誤りのリスクが存在



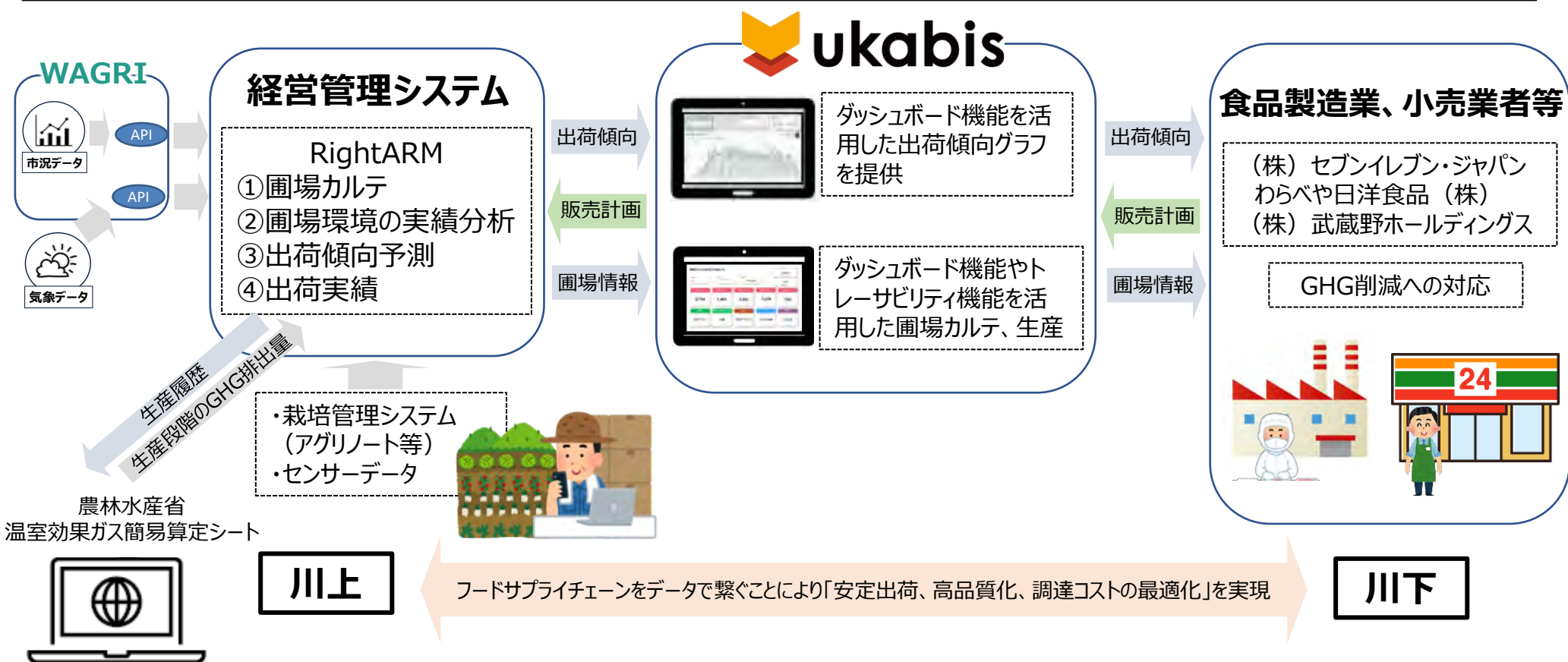
- ❑ デジタルでの出荷情報のやり取り
- ❑ 市場のシステムへの出荷情報のデータ取込による作業負担軽減
- ❑ 出荷情報にパレットIDを紐づけることにより、パレット管理が可能

産地の出荷情報(品目、箱数、パレットIDなど)をQRコードとスマホでデジタル化。
ukabisを活用することで、産地側と市場側のシステム連携を容易に行うことが可能。

令和5年度農業データの川下とのデータ連携実証事業の成果①

加工原料・業務野菜での農と食と未来をデジタルで繋ぐコンソーシアム：代表機関 テラスマイル（株）

- フードサプライチェーンをデータで繋ぎ、販売計画に合わせた生産計画を推進することで、潜在する無駄なコスト（急な調達先の確保、市場経由での補助的な取引等）を省き、「**安定出荷、高品質化、調達コストの最適化**」の実現を目指す。
- このため、テラスマイル（株）の経営管理システム「RightARM」の機能を用いて、①**出荷傾向予測の情報**、②**圃場カルテ（圃場名、面積、品種、積算温度等の情報）**、③**生産段階のGHG排出量の情報**を川下事業者[※]に提供する仕組みを構築し、スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）を活用したデータ連携実証を実施。
- 事業実施主体：テラスマイル（株）、（株）食農夢創、（有）大崎農園、（株）セブンイレブン・ジャパン、わらべや日洋食品（株）、（株）武蔵野ホールディングス



令和5年度農業データの川下とのデータ連携実証事業の成果②

GAP産地APIコンソーシアム：代表機関（株）ソフトビル

○ 国内のGAP商品の取引を活性化させ、マーケットの拡大を図るため、（株）ファーム・アライアンス・マネジメントの**生産情報管理システム「FarmRecords※1」**の**GAP産地の情報を（公財）流通経済研究所が運営する農林水産業流通マッチングナビ「アグリリーチ※2」**に提供する仕組みを構築し、スマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）を活用したデータ連携実証を実施。

○ 事業実施主体：（株）ソフトビル、（株）ファーム・アライアンス・マネジメント、（公財）流通経済研究所

○ 協力機関：中九州青果（株）、（株）大治他

※1 圃場単位で農作業を記録することで、作業進捗状況を「見える化」し、農場管理者と現場の情報共有をスムーズに行うことが可能。また、国際認証グローバルGAPが記録を要求している農場の作業記録を網羅。

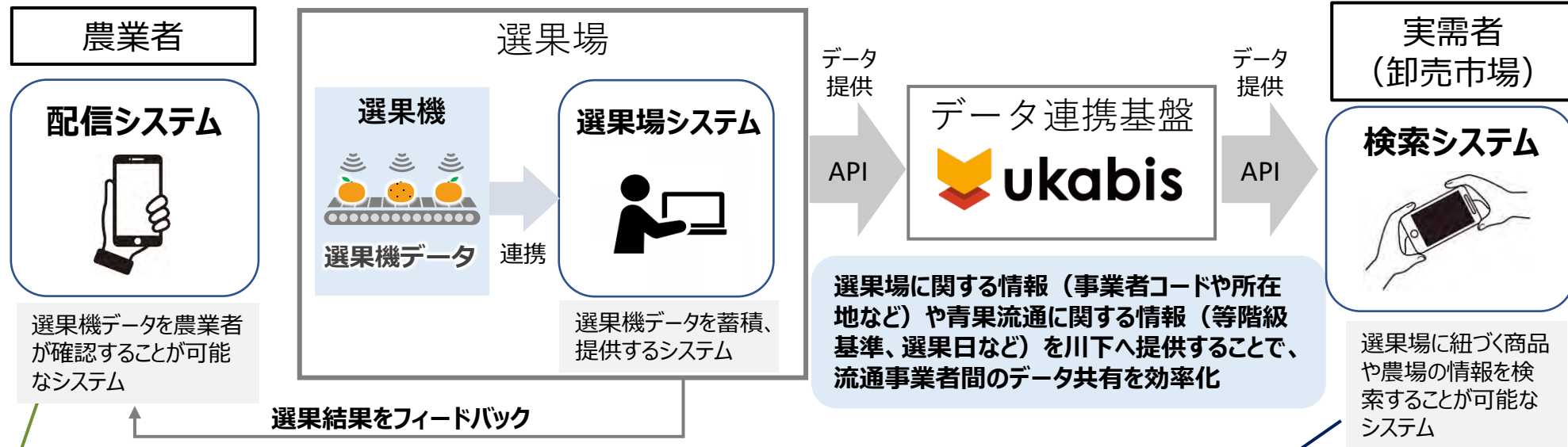
※2 農林水産物の流通に携わる事業者に関する情報プラットフォーム。売りたい商品や買いたい商品、希望する取引条件など、知りたい情報を検索し、新しい取引先を探すことが可能。



令和6年度農業データの川下とのデータ連携実証事業の成果

選果機4.0コンソーシアム：代表機関 （株）ソフトビル

- 選果機から取得可能なデータ（以下、選果機データという。）を活用するため、**選果機データを蓄積、提供することが可能なシステム「選果場システム」**及び**選果場に紐づく商品や農場を検索することが可能なシステム「検索システム」**を開発し、選果機データを川上から川下までつなぐスマートフードチェーンプラットフォーム（ukabis）を活用したデータ連携実証を実施。
- また、**選果機データを農業者にデジタル情報でフィードバックするシステム「配信システム」**を開発し、選果機データを活用した営農の改善に寄与する取組を実施。
- 事業実施主体：（株）ソフトビル、（株）ファーム・アライアンス・マネジメント、（公財）流通経済研究所、熊本市農業協同組合



川上側でのメリット



昨年度との実績比較などがスマホで簡単にできることがとても良い。現在の圃場の状態と照らし合わせながら栽培を振り返ることができる。

川上側でのメリット

検索システム

ロットNo. 555202404303333

事業者コード (No.) 1235790

事業者コード (GNL)

選果場名 なす選果場

郵便番号 1050013

選果場所在地 東京都港区浜松町1-20-11

品名/品種 なす(33333) / トマト1

産地区分 共通

等級/規格基準 デザインロード

荷受開始日 2024-04-30T09:00

荷受終了日 2024-04-30T09:00

選果開始日 2024-04-30T12:00

選果終了日 2024-04-30T16:00

検索

荷受日や選果日がわかるため、葉物野菜など鮮度が求められる商品については、有効な情報が得られる。